お知らせ

◆勉強会のおしらせ

5月17日から19日の「遠藤文学・原点の旅＝長崎・天草」の旅行説明会と勉強会を左記の通り開催します。参加者はぜひご出席ください。ツアーに参加しない人の出席も自由です。ぜひお出でください。

「遠藤周作と隠れ切支丹について」「長崎・天草の歴史文学」等の話とツアーについての説明をします。講師は加藤宗哉・高橋千劒破・山根道公ほかの予定です。

日　時　4月26日（土）
午後3時～5時
会　場　日本ペンクラブ（3F会議室）
TEL 03-5614-5391
地下鉄日比谷線か東西線「茅場町」駅下車4分
会　費　1000円
申込みの必要はありません。当日直接会場にお越しください。尚、終了後お時間のある方は懇談会食会（2000円程度）も予定しています。

◆遠藤文学講座のお知らせ
〈遠藤周作の生涯と文学⑬～ハンセン病病院再訪〉

日　時　4月12日(土)、5月10日(土)、6月14日(土)、7月12日(土)
3時20分～4時50分
場　所　幼きイエス会（四谷駅麹町口前）
TEL 03-3261-0825
講　師　山根道公
受講料　1回2000円（学生半額）
申込み…風編集室
TEL FAX 086-227-5665
内　容　今回は、遠藤周作が入院から復帰後、最初に連載をはじめた長篇小説「わたしが・棄てた・女」を読み解きます。そのモデルとなった井深八重や、他のハンセン病に関わる作品などとも関連させて、遠藤氏の生涯におけるハンセン病病院訪問のもつ意味についても考えます。

市民クリスマス★ページェント★ 2007
周作クラブ長崎「無鹿」が出演

12月22日の午後、ＪＲ長崎駅前かもめ広場から流れるハーモニー。師走の街を急ぐ人々もふと足を止めて聴き入っていく……。

周作クラブ長崎のコーラス・グループ「無鹿」が、表記のイベントに登場、「ふるさとの四季」より3曲、「クリスマス・キャロル」から、〈きよしこのよる〉〈赤鼻のトナカイ〉など6曲ほどを披露し、好評をはくしました。観客や、会員から沢山のお花・ご祝儀を戴きました。中でも一人の見知らぬ男性（写真）から贈られた花束に無造作に差し込まれた千円紙幣には、メンバー達もびっくりしました。お蔭さまで、市民に愛される「無鹿」になりつつある手応えを感じながら益々練習に励み、今年も楽しく活動したいと思います。

ファンからのお花受ける　　撮影・高尾眞治さん

◆長崎だより

遠藤周作はじめ多くの作家や文化人に愛され、全国の遠藤文学ファンにもその名を知られた長崎の「とら寿し」が、今年の2月末日で閉店しました。御主人の大竹豊彦さんは、「樹座」でも活躍し、「周作クラブ長崎」の生みの親でもあります。第一級の鮨を提供し続ける緊張感と気力、そして体力の維持は大変なことだったようです。50年間、本当にご苦労さまでした。

長崎を訪ねたときの楽しみが一つ減ったことは残念ですが、大竹さんは、これからも周作クラブを支え続けてくれる予定です。

◆編集後記

▼2008年最初の会報をお届けします。巻頭は遠藤龍之介さんにお願いしました。含蓄あるいいエッセイです。大人になったばかりで何をやっても楽しく、遊びに夢中だったころ、父遠藤周作にさり気なく教えられた本当の大人の楽しみとは何か。

▼漢の武帝が「秋風辞」に記した、「歓楽極兮哀情多、少壮幾時兮奈老何」を、ふと思い出しました。楽しみの後には哀しみが待っています。若く元気なときは短かく、いずれ老いがやって来ます。そのときにこそ本当の楽しみを、という遠藤先生のメッセージを、龍之介さんが代弁してくれています。

▼本号から金田浩一呂さんの連載エッセイが始まります。金田さんは元夕刊フジ学芸部長で、遠藤先生や阿川弘之さんらと親しく付き合った文芸記者です。宇宙棋院の創立メンバーのお一人で、樹座にも馬の脚の役で出演しました。遠藤先生にまつわる愉快なエピソードの数々を披露してくれる予定です。ご期待ください。

▼会員の皆さん、会報に関する御意見・御感想を、ぜひお寄せください。（劒）

「周作クラブ」第30号
2008年2月発行
■発行人　加賀　乙彦
■編集人　高橋千劒破
■副編集人　金子　コウ
■編　集　岡田厚美、黒澤政子、近藤恭弘、矢内一正
■発行所　東京都世田谷区上馬4-29-17
加藤宗哉事務所内「周作クラブ」
TEL080-1097-1979
FAX03-3411-7939
●次回の会報発行は5月の予定です。